

■ パーソナリティ（マエストロ）

What'sUP の時間帯ですが、本日の番組内容は丹波市市政広聴会として市民の皆様から頂いた意見や提案について、林市長に直接お答えいただきます。

市政広聴会とは、各世代からテーマへの意見や提案を拝聴し、今後の市政に反映していくことで市民の市政への関心を高めることを目的に開催されるものです。

今年度は、「帰ってこいよ」の輪が広がり、「住もう」「帰ろう」の希望がかなうまちづくりに向けて4つのテーマを決めています。

- ・市民が暮らしやすい丹波市
- ・子育て世代・現役世代が魅力的に感じる丹波市
- ・「帰ってこいよ・帰ってきたい」と声かけ合える丹波市
- ・子どもを産み育てる喜びあふれる丹波市

この4つについて意見交換を行うもので、8月には、パソコンのオンライン会議ソフトである「ズーム」を使用し、デジタルを活用したオンライン形式で市政広聴会が開催されました。これより、ラジオ放送による書面形式の市政広聴会をお送りします。

丹波市から林市長にお越しいただいています。

（こんにちは。丹波市長の林です。）

はじめに、8月に開催された市政広聴会の様子についてお聞かせいただけますか。

■ 市長

市民の皆様から広く意見を拝聴するため、各地域へ出向き、顔を見ながらお話がしたいと考えていましたが、新型コロナの第7波の影響もあり、デジタルを活用したオンライン形式で開催しました。

オンライン会議ソフトやデジタルを活用したまさに今の新しい時代の意見交換の形でデジタル化の波を感じているところです。

このオンライン形式の市政広聴会では、丹波市と連携協定を結んでいる大学で丹波市の事業に携わっている学生や、丹波市の地域活性化のために様々な取組で活躍をしている方々に参加をしてもらい、多くの提案をいただきました。その様子はYouTubeで配信しておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います

ただ、単にデジタル化を進めたのではデジタルに精通した人だけに伝えることになります。そのため、デジタルが得意でない人にも声を届けるために、本日は、FMラジオ放送の中で、市民の皆様から書面で頂いた意見や提案に答える形でお伝えしたいと思います。

■ パーソナリティ (マエストロ)

山南町の浅場さんからご意見を頂いております。

「市民が暮らしやすい丹波市」のテーマで意見提案させていただきます。

近年、異常気象によるゲリラ豪雨や線状降水帯による局地的な集中豪雨が多発しています。災害時には昼夜を問わず、市の発表により避難所等へ徒歩や車で行かなくてはなりません。そこで、提案ですが、市道の外側線やセンターラインをはっきりと見えるようにしてほしいのです、以前は定期的に補修をされていた様に思いますが、最近は消えてしまったままの所が多数あります。特に夜間などは街路灯やガードレールが少ない箇所ではさらに危険度が増すと思われます。

また、災害時に限らず、児童・生徒の通学時の安全確保のためにも必要かと思しますので、意見として提案いたします。

それでは林市長お願いします。

■ 市長

浅場さん、ご意見、ご提案ありがとうございます。

提案のとおり、災害時に限らず道路環境を安全に確保することは非常に重要であります。

そのため、市においては、道路状況を把握するためパトロールを行っております。しかしながら、市道の延長は約 1100 kmあり、限られた予算の中での保全整備については限界があるところですが、地元要望をはじめ、道路の傷み具合により、順次、保全を行い、安全な道路として利用いただけるよう整備を進めています。

また、いち早く対応するためお近くの道路状況でお気づきの点がありましたら情報として担当部署にお知らせいただきますようお願いいたします。

本日は貴重なご意見ありがとうございます。

■ パーソナリティ (マエストロ)

春日町の臼井さんから4つのご提案を頂いております。

1つ目の提案は「広報委員会の設置」です。

私は広報たんばの編集アドバイザーをさせていただいております。

その経験から感じていることは、広報は「丹波市の顔である」ということです。広報担当職員が知恵を絞り、取材、編集、校正に汗を流し、毎月市民に届けていただいております、年々充実した内容になってきていると感じています。広報を今以上に充実させるために、住民も交えた広報委員会と広報室の設置を提案いたします。

少子高齢化に伴う人口減少や空き家対策、自治会運営などの課題が山積する中で、市民の悩み、市民の声を拾い上げ、一緒に解決していくきっかけになればと考えます。住民の中から委員を選び、ひと月に一度、広報担当者とともに紙面構成、掲載内容などを議論し、紙面に

反映させられるようにすればと思います。そうすることによって、市民と行政の距離も短くなるでしょう。時には、委員にも取材に入っただけならば、市民目線の広報になるのではないかと期待しています。ぜひ実現してほしいです。

2つ目の提案は「観光戦略の一環として観光ボランティア養成講座開設と市内観光ルートを設定し、観光客を呼び込む方策の展開」です。

道の駅丹波おばあちゃんの里リニューアル、観光拠点「丹波ええとこナビ」の設置により訪れる観光客も増え続けています。まさに丹波市の玄関口になっております。玄関から色々な部屋に観光客を誘導するため、市内観光施設を結ぶルート化が必要と思います。丹波市には、歴史名所、伝統行事、自然、おいしい農産物が豊富で、観光協会の丹波市観光100選にも選定されています。昨年春には観光地を広域的に案内する「丹波ええとこガイド」も発足し、メンバーが観光案内を行っています。市長さんも毎朝、黒井城跡に登ったあと出勤され、もうすぐ5000回に達すると聞き及んでおります。年間を通じた観光ガイドのリクエストも黒井城跡や黒井城下のまち歩き、柏原城下の散策が中心で、まだまだたくさんの観光地があるにもかかわらず、観光客誘致がはかされていないのが現状です。そこで、提案です。

歴史に興味を持つ人には市島町の三ツ塚遺跡を中心とした古代遺跡を訪ねるツアー、戦国時代の山城をめぐる旅をすすめたいと思います。

自然界に興味を持つ人には、本州一低い分水界「水分かれ」を中心とした「氷上回廊」の不思議を体験、恐竜の生きた時代にタイムスリップなどの企画を旅行社に積極的な売り込みを、観光協会と一体になって進めていくことを提案したい。

ガイドの養成も急務です。ええとこガイドには30人近くのメンバーがいますが、高齢化も進んでいます。新たなガイド発掘と丹波市一円をガイドできる養成講座は必要です。基礎、実践も含めて、市が積極的にガイド養成に乗り出してほしい。観光協会とタイアップし、進めてください。お願いします。

3つ目の提案は、「男子厨房に入ろう」運動の展開です。

男女共同参画の時代ですが、家庭での男女の役割分担、助け合いに関して、「男子厨房に入ろう」運動の展開を提案します。

市長さんも料理がうまいと聞いております。私も下手ながら食事の準備や片付けなどをするようになって感じたことをもとに、提案しました。毎日の家事は皆さん女性の仕事と思われる方が多いのではないのでしょうか(そんなことはないと思われる方はごめんなさい)。私はささやかですが、家事を通じて感じたことは男性目線が世の中はびこっていることです。食事作りやごみ出し、風呂掃除などをしていると友人、知人に話すと男女の区別なく、皆さん一同に「えらい」とほめてもらえます。しかし、そうでしょうか。これが当たり前になると、男性の目線も変わると思いますよ。たとえば、今日の献立を考えると、買物に行きます。値段が気になります。最近の物価高も身近に感じるのです。

女性との会話でも、ゴミのこと、料理のことと話が弾みます。男性目線を生活者目線にかえるためにも全国初(確証はありませんが・・・)の「男子厨房に入ろう運動」を提唱してみませんか。

ある会社を定年退職した人が書いている文章の中に、年をとっても自分のことができるように、料理や簡単な掃除、洗濯の練習をする、妻に「ありがとう」と自然に言える、セクハラ的言動を慎む日頃からの意識づけ・・・という言葉がありました。

男子厨房に入る、料理が無理なら、後片付けでも。まあ、徐々に輪を広げていけば、男女共同参画、人権意識向上などにもつながるのではと思います。

4つ目の提案は「丹波市結婚相談センターの設置」です。

丹波市の少子高齢化対策として、独身男女の出会いの場である結婚相談センターを開設してほしい。

現在は丹波市から委嘱を受けた婚活おせっかいマスターが登録した男女の結びつきのお手伝いをしており、登録する人も増える傾向です。さらに多くの市民が関心を持ち、気軽に相談できる相談員が常駐する結婚相談センターを市民プラザか市役所内に設置してほしいと思います。

それでは林市長お願いします。

■ 市長

臼井さん、多くのご意見、ご提案ありがとうございます。日頃は、広報たんばの編集アドバイザーとして毎月、ご意見とご指導を頂きありがとうございます。おかげさまで、毎月、市の広報紙を市民の皆さんのお手元に届けることができています。

本日は4点の提案をいただいています。

どの提案も具体的な例をあげて提案いただき、ラジオをお聞きの皆さんにも非常にわかりやすく伝わったのではないのでしょうか。

まず、1つ目の提案の「広報委員会の設置」についてです。

提案のとおり、広報紙は丹波市の顔である。まさにその通りです。広報紙を通して市の取組や市内のイベント等の情報を市民の皆さんにわかりやすく知っていただけるよう、毎月、担当職員が知恵を絞って広報たんばを発行しています。

広報紙に求められるのは、生活に必要な行政情報を中心に市民ニーズにマッチした記事内容です。そのため、テーマ別のページ割や、定期掲載の記事は、掲載場所が大きく変わらないよう紙面を工夫するなど、情報がわかりやすく伝わることをめざして紙面づくりを行っています。

ご提案にありました広報委員会や広報室を設置することで市民目線の親近感のある読み物

にはなると思いますが、紙面の大半は行政情報に使っております。また、レイアウトや構成、締切りの関係で委員会を設置したとしても、委員の皆さんのご期待に応えられる組織にはならないと思いますので設置の予定はありません。しかし、フェイスブック、ラインなどのSNSによる情報発信においては、市民リポーターの方から季節のイベントや丹波市の魅力を感じる写真を随時提供いただいております。市民目線で様々な年代層に向けた情報発信を行っていますので一人でも多くの方にリポーターになって頂きたいと思っております。

ご希望の方がございましたら総合政策課までお問い合わせください。

2つ目の提案である「観光戦略の一環として観光ボランティア養成講座開設と市内観光ルートを設定し、観光客を呼び込む方策の展開」です。

ご意見にもありましたように、丹波市には観る・食べる・買う・泊まるとすべてのジャンルで誇れる名所や名物がたくさんあります。また、丹波竜をはじめ、古代からのメッセージに触れる「丹波竜化石工房ちーたんの館」や生物多様性について学べる水分れフィールドミュージアム、その他奥深い歴史の名所旧跡がたくさんあります。このような観光資源を有効に活用した観光名所のルート化は、丹波市を巡るうえで非常に有効な方策と言えます。観光協会のホームページでも、モデルコースとして紹介され、地域別の名所を歩いて観て回れるお薦めのコースとなっています。ご提案にもありましたように、地域別だけでなく、歴史や自然をテーマとしたルート化は観光人口を確保するうえで重要であると考えます。さらに、大河ドラマのロケ地や舞台となることで新たな視点での観光名所に繋がると考えていますので新たなルートについても引き続き検討していきたいと思っております。また、具体的な案がございましたらご提案頂ければ幸いです。

また、観光名所を巡るうえで、欠かせないのが、日々活躍を頂いているボランティアガイドの皆さんです。

「丹波ええとこガイド」の30人をはじめ、市内には合計73人のボランティアガイドが活躍されており、観光名所のサポートを頂いています。高齢化が進む中、ボランティアガイドの養成は大切と考えます。そのため、若い世代に関心を持っていただき、丹波市の名所の語り部として歴史を語るリレーが必要と考えますので研究していきたいと思っております。

黒井城の観光ガイドは、私もたまにさせていただいています。

3つ目の提案である「男子厨房に入ろう」運動の展開です。

私は個人的に料理を作るのが好きで、いつも楽しみながらやっています。

ほとんど毎日、我が家では私が料理を作っています。

市役所から帰るときは、まず、フレッシュさとうさんに寄って、それからゆめタウンに寄って、ココモさんに寄って、3軒のスーパーをはしごして食材を集め、その日の献立を考えて作っています。

私自身、お弁当もですね、子どもが高校を卒業するまで、ほとんど毎日作っています。料理

はほんと楽しいですね。私、お酒の方もちょっと好きなので、自分でおつまみを作るという楽しみもありますので、どんどん「男子厨房に入ろう」運動はやればいいと思います。

国の事業に「“おとう飯(はん)” はじめよう」キャンペーンというものがあるのを知りました。国では、平成 29 年から、これまで料理をしていない男性に対して、料理に対するハードルを下げることで、料理を通じた家事への参画を促進し、男性の家事・育児等への参画を拡大することを目的にキャンペーンを実施しています。

丹波市をみれば、平成 29 年度に策定した第 3 次丹波市男女共同参画計画で、男性の家事・育児・介護への参画を推進項目にあげており、研修会や講座で、男性の家事・育児・介護への参画促進の啓発を行っています。

地域の中では、男女共同参画推進のため、男性の料理教室をしている自治協議会や自治会、市民団体もあります。

私も春日部地域で、男の料理教室と題して、魚を三枚に下ろして刺身にする講師役を務めまして、マイ包丁を持って参加したことがあります。

「男だから」「女だから」ではなく、お互いが、心地よく暮らしていくためには、まずは家庭の中で、家事の役割分担について、対等に話し合いをすることが大切なのではないのでしょうか。

そういう意味では、あえて特別に、〇〇（まるまる）運動という形を作るのではなく、日常の「当たり前」「自然体」の行動になることが大切だと思います。

それぞれの家庭の考え方、カタチがあると思いますが、家庭内での共同参画が広がっていくと、「えらい」とほめてもらえるのではなく、「やってあげたんだ」と優越感を抱くのではなく、「お互いがんばってるなあ」、「ありがとう」という会話ができるようになると思います。そこから、男女共同参画社会が築かれるのではないかと考えております。

ちなみに私の得意料理はカツオを捌いて作ったカツオのタタキ、ネギを入れる出汁巻きです。たくさん作った時には職員にも振舞っています。

4 つ目の提案である 結婚相談センターの開設についてです。

日頃は、婚活おせっかいマスターとして、おせっかいマスター結婚相談のメンバー登録者同士のお見合いのセッティングをはじめ、定期的な連絡相談や独身男女の良縁の提供など、結婚に関するサポートにご尽力をいただきありがとうございます。

現在の市の取組としては、婚活おせっかいマスターさんの活動と合わせ、成婚に向けて後押しする支援策を重点に行っております。支援の例としては、婚活イベントを開催する団体への補助や新婚生活をサポートするための住宅に関する補助があります。

制度に関する詳しいことは子育て支援課までお問い合わせいただきたいと思います。

現在行っている婚活支援事業の取組をさらに広く知ってもらい、登録者が増えるよう、PR にも力を入れていきたいと思っています。

今後とも、お力添えをよろしく願いいたします。

本日は貴重なご意見ありがとうございました。

■ パーソナリティ (マエストロ)

高校生が創る丹波の未来への懸け橋プロジェクト 広報班の谷垣さんからご意見を頂いております。

地域活性化に繋がる活動について紹介させていただきます。

■ 活動の目的

丹波市の地域活性化に向け、市内柏原高校、氷上西高校、氷上高校の3校の生徒が主体になり、自らが地域と協力体制を築き、地域活動を行うことにより地域における若手世代の役割を確立し、地域の活性化をはかる取組を進めます。

■ 高校生が創る丹波の未来への懸け橋プロジェクト

私たちは、丹波を盛り上げること、高校生が活躍する場を作ること、氷上高校、氷上西高校、柏原高校の市内3校の交流を深めることを目的に活動しています。

昨年のモンブランのギネス世界記録に続き、今年は私たちを含む4つの団体に協力してランタンフェスティバルを開催します。まだ詳しいことは決まっていないのですが、イベントに来てくださった方とランタンを作り、あかりを灯そうと話し合いを進めています。他にも、キッチンカーを呼んだり、ステージ発表をしたりする予定です。

イベント日時は2022年12月18日(日)に、場所は青垣町田井縄の芦田集学校で行います。ぜひお越しください！

それでは林市長お願いします。

■ 市長

谷垣さん、ご意見、ご提案ありがとうございます。

先日は市長室にイベントの報告のため、訪問をいただき、ありがとうございました。いつもながら、若い人たちの積極的でやる気に満ちた姿勢には非常に感心しました。

昨年の3校合同プロジェクト“丹波市をもっと有名に”を合言葉に行われたモンブランに続く、“丹波市の活性化”に向けた提案ですね。また、昨年と大きく違い、前進した点は、生徒達が自ら発案し、生徒達で計画し、生徒達でイベントを実現させるところです。

今回はランタンフェスティバルを開催されるとの事ですが、12月の寒い中、柔らかなランタンの灯りを灯すことで、コロナ禍にある今、不安やストレス、困難など、色々な思いを抱

く方々に笑顔と安らぎを与え、今後に向けた希望の光になるのではないのでしょうか。

このような地域活性化の活動を成功させるには若い世代の参加は必要不可欠です。

活気に満ちた斬新なアイデアで大人たちを「あっと」驚かせるような内容を計画していただきたいと思います。市としても全面的に応援していきたいと思います。

イベントの開催に向けた準備等で市へ相談したい事があれば、遠慮なく市役所に来てください。市長室のドアを開けてお待ちしておりますので、気軽に声を掛けていただきたいと思います。

12月18日の芦田集学校でのランタンイベント、私も参加させていただきます。楽しみにしていますよ。

本日は貴重なご提案ありがとうございました。

■ パーソナリティ (マエストロ)

林市長ありがとうございました。

イベントについて再度お知らせします。

高校生が創る丹波の未来への懸け橋プロジェクトの主催による ランタンフェスティバル開催のお知らせです。

イベント日時は2022年12月18日(日)、場所は青垣町田井縄の芦田集学校で行います。ぜひお越しください！

メンバー募集もありまして

私たちと一緒にイベントを盛り上げてくれるプロジェクトメンバーを募集しています。市内の高校生、市内在住の高校生であれば誰でも参加できます！

参加申込は、氷上西高校 稲川 詩音^{しおん}さん、氷上高校 村上 煌真^{こうま}さん、柏原高校 谷垣 葵衣^{あおい}さんまで連絡をお願いします。

本日は市政広聴会につきまして提案いただきました方、ありがとうございました

それからお越しいただきました市長さん、ありがとうございました。

■ 市長

はい、こちらこそ、ありがとうございました。